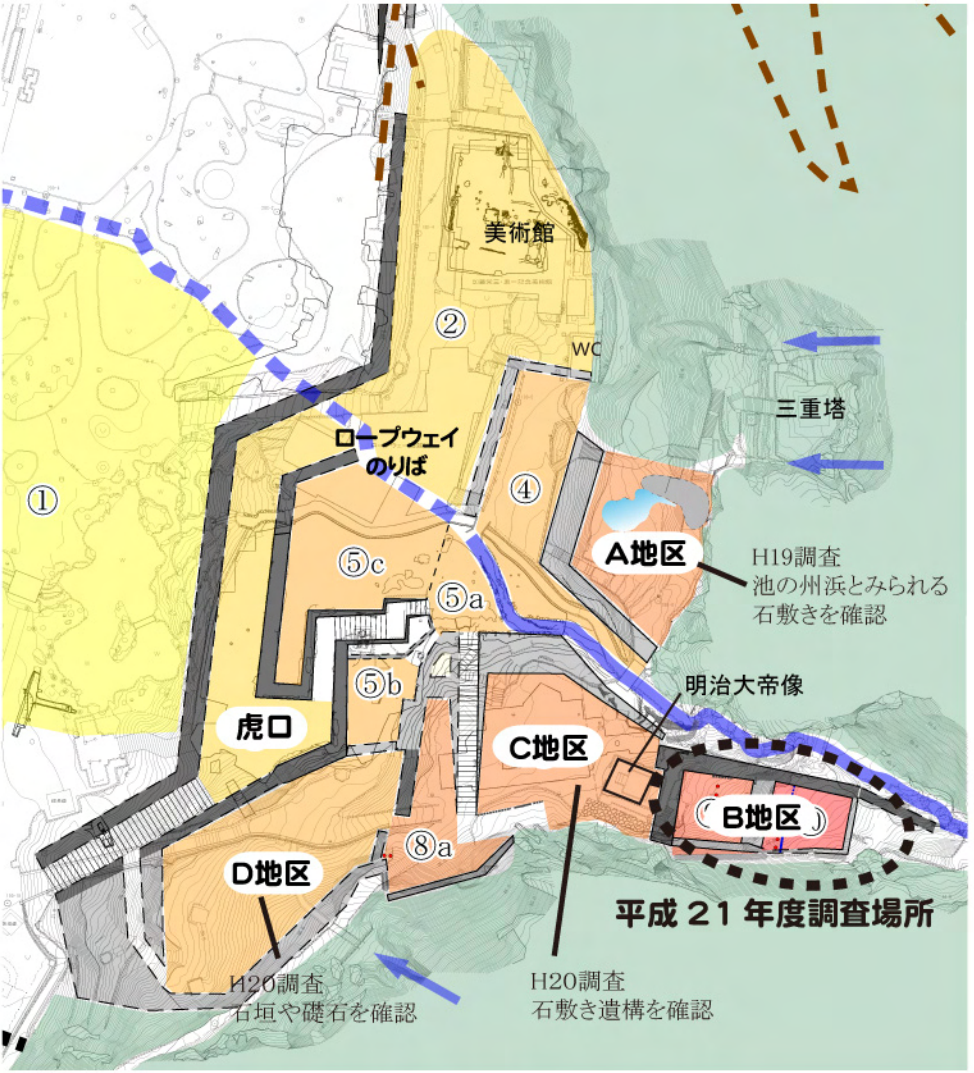
織田信長公居館跡
発掘調査現場公開

平成22年2月27日（土）
午後12時30分～3時



信長公居館跡　地形復元図

岐阜市教育委員会　（財）岐阜市教育文化振興事業団

織田信長公居館跡（B地区）発掘調査成果

織田信長公居館跡は、過去に３回の発掘調査が行われています。平成 19 年度からは遺跡全体の性格を解明するために４次調査を開始し、昨年度までに巨石列、石垣、庭園の可能性がある石敷きや建物の礎石などが見つかりました。今年度は重要な施設があることが想定される槻谷（けやきだに）の東奥部分**（ＢⅠ・Ⅱ・Ⅲ地区）**の調査を行っています。

ＢⅠ・Ⅱ区

一番下のＢⅠ区では、昨年度見つかった石垣のつづき、**東側の石垣と南と東側の石垣のコーナー**が見つかりました。いずれの石垣の表面は火災によって赤く変色しています。石垣の前には焼土（壁土が焼けて赤くなったもの）が大量に堆積していることも確認できました。火災は 1600 年（慶長５）の関ヶ原の合戦の前哨戦の際のものと考えられます。

二番目の平坦地（ＢⅡ区）では昨年度同様、水路や建物の礎石、石垣が見つかりました。

ＢⅢ区

一番奥のＢⅢ区では、**池と円形の石組み（水溜め状遺構）が一体となった園池遺構**がみつかりました。水溜め状遺構は手水（ちょうず）のような施設であったと考えられます。隣には池があり、石組みで護岸され、池底には白い砂と川原石を敷いてあります。南側の岩盤を伝った水が水溜め状遺構に集められ、そこから溢れ出た水が池へと流れ出し、さらに池から谷川へと排水されるような仕掛けであったと考えられます。

巨石石組み

Ｂ地区の北側を流れる谷川の南斜面は、１～2.5ｍの**巨石を用いた石組み**が護岸として築かれています。ＢⅢ区ではこれらの巨石の石組みと園池遺構が一体として造られていることが確認されました。石組みはさらに東西に伸び、70ｍほどの雄大なものになる可能性があります。

園池遺構発見の意義

園池遺構一帯は、水溜め状遺構及び池の構造、立地などから**室町将軍邸の庭（唐物飾りの茶座敷の庭）の系譜**につながる可能性があり、**日本庭園史の中で大変貴重な資料となる**と考えられます。と同時に、元来革新的なイメージが強い信長ですが、岐阜時代において、**室町将軍家の伝統や権威を継承しようとした一面が**あったことが遺構から見てとることができます。

問合せ先：岐阜市教育委員会社会教育課　電話058－265－4141（内線6357）